

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

①本町における課題

特別支援学級に在籍する児童生徒及び通常学級に在籍する配慮が必要な児童生徒が年々増加しており、子どもに合った支援や体制の構築のためにこれまで以上に関係機関との継続した連携が必要となっている。

②課題を踏まえ設定した目的

配慮を必要とする子どもに対して、就学前の「気づき（早期発見）」が重要であり、早い段階からの支援がその後の成長に大きく影響するものとする。

早期発見・早期対応の機会を得るため、一人ひとりの発達段階が分かる共通シートを活用するなど、切れ目ない支援体制の整備を行うこととした。



成果

①得られた成果

- ・共通シートを活用することで子ども一人ひとりの発達段階を把握することができるようになり、家庭や園等での早期支援に繋げることができた。
- ・共通シートを「個別的教育支援計画」等の作成や引き継ぎに活用し、就学後のスムーズな接続を図ることができた。
- ・切れ目ない支援のあり方について支援者の研修会を実施し、共通理解を深めることができた。

②成果を踏まえた今後の取組

- ・切れ目ない支援体制の確立
- ・成長の記録方法の統一化

事業内容

①構築した支援体制図（右図のとおり）

②有機的ネットワーク形成内容

- ・特別支援連携協議会、特別支援教育コーディネーター連絡協議会の設置
 - 町の特別支援教育体制の評価検証，情報・課題共有。
 - ・成長の記録を記す「加美町いつまでも支援シート」の活用
 - 子どもの年齢に応じた発達状況が客観的に把握できる内容
 - 得意なことを見つけて伸ばすことが目的。自己肯定感・自己有用感を高める。
 - 関係機関と情報共有化で切れ目ない支援体制の構築を図る。
- （保幼小連携，「個別的教育支援計画」等の作成，引き継ぎ等）

③普及啓発内容

- ・支援者の研修会実施
 - 作業療法士による発達に必要な体の成長を促す研修
 - 宮城県幼児教育アドバイザーによる幼児の発達状況に合わせた年間の指導計画の立て方に関する研修
 - 小児科医による就労できる子どもをつくる研修やメディアの影響と子どもの発達に関する研修会等実施

【早期発見・早期対応のための切れ目ない支援体制】

